

平成26年度 第2回湖東中学校 学校評議員会のまとめ

- 1 日時 平成27年2月21日(土) 13:35~15:30
- 2 場所 湖東中学校 校長室
- 3 出席者(あいさつお願): 景山隆さん(保護司会)、
牧野厚志さん(県教育センター)、 邨上真由美さん(心のボランティア)
山下恭史さん(池ノ端応援団・親和商事) 本名俊正さん(鳥取大学) 欠席
学校教員: 平井光一校長、小椋幸人副校長、山本亨教頭、河中俊文教務主任、
平本光利生徒指導主事、奥田仁美特別支援教育主任、田聰朋子養護教諭
- 4 話し合い内容
 - 1) 授業参観について
 - ① 6月より参観保護者が少ないが半分以上の親が参加しており、参加人数として良いのではないか。
 - ② 1年生の保護者の参観が多かった。期待の表れではないか。
 - ③ 生徒の学習態度が6月の参観日より良かった。落ち着いていると感じた。
 - ④ 先生方の授業を見てよくやっておられると感じた。
 - ⑤ 見ていると黒板の前にずっとはり付いていた先生が何人かいた。もっと生徒の中に入っていくことが大事かと思う。考えさせたり、行動させたりする時に一人一人に声をかけたりしたらもっと授業がよくなるのでは。
 - ⑥ どの授業にも「めあて」の板書があった。少し、抽象的な表現のめあてがあったので、生徒が1時間が終わって振り返りができる「めあて(表現)」にした方がいい。
 - 2) 本校生徒の現状について質問
 - ① 問題行動の組織的対応とは。
 - ② 不適応生徒とは
 - ③ 家庭内指導が期待できない家庭の状況は。
 - ④ 問題行動生徒の小学校時での状況は。PTA・地域で何とかできるものはないか。地域としてどのように関わっていくのか。
 - 3) 26年度学校が取り組んだ重点項目について
各専門部の自己分析・自己評価について
 - ① 3カ年の計画表を見て、企業がやっている手法で感心した。
3カ年と1年間のPDCAの取り組みはとてもいい。学校全体の目的意識が明確になり生徒全体の平均値を上げるのに効果が大きい。これに並行して、生徒の学力だけでなく、生徒一人一人が持つ才能・能力・興味・関心を見つけてそれを伸ばす指導もお願いしたい。
 - ② 3カ年計画表は、見通しが持てる。どこに力を入れていけばいいのか焦点が絞れる。「見える化」でとてもいい。
 - ③ 26年度自己評価の課題を来年にどう生かすかが大事。より具体的にどう取り組んでいけばいいかを検討すること。
基本アンケートの結果を次の3つに分けて
 - 1 教師に問わないといけないもの
 - 2 生徒に問わないといけないもの
 - 3 保護者・地域に働きかけないといけないもの例 基本アンケート「授業では、自分の考えを伝えたり、説明したりすることができている。」
→<教師に問わないといけないもの> 学習のめあてを明確にして授業を行い、考えを深めさせる場面設定をきちんと教師が行っているか。
 - ④ 地域連携では、心のボランティアや民生委員は子どもたちの顔を知ることが大事と考えている。子どもたちの顔が見える関係をまず作っていこうと週2回あいさつ運動をしている。
 - ⑤ 各階の掲示物を見ると非常に工夫してあり関心する。特に3年生が後輩に送った学習に対する姿勢や勉強の仕方のメッセージはとてもいい。3年生にとっていい振り返りになったと思う。
 - ⑥ ただ、いろんな取り組みを見ると生徒会が行ったとしても結局は教員の手がかかっている。教員がかかわることが多すぎているのではないかと心配する。
→何のために調べるのか、ねらいをきちんと持って調べ物や掲示をしないと教員の多忙化につながっているのではないか。切り捨てることも大事。
 - ⑦ 自分の業務・分掌の見直しをすることは大事。
 - ⑧ 3カ年計画の最終年度の28年度が正念場で集大成となる。3年後のゴールを見通して1年ごとに成長していけば良いと思う。